「日本地理絵葉書」について

―視覚メディア教材史の視点から―

廣瀬　剛・田中　修二

On "Nihon Chiri E-hagaki (Picture Postcards of Japanese Geography)"

― From the viewpoint of the history of visual teaching material―

HIROSE, Takeshi and TANAKA, Shuji

大分大学教育福祉科学部研究紀要　第 37 巻第 2 号
2015 年 10 月　別刷
Reprinted From
THE RESEARCH BULLETIN OF THE FACULTY OF
EDUCATION AND WELFARE SCIENCE,
OITA UNIVERSITY
Vol. 37, No. 2，October 2015
OITA, JAPAN

「日本地理絵葉書」について

―視覚メディア教材史の視点から―

廣　瀬　剛*・田　中　修　二**

【要　旨】　本論は，現在の由布市挾間町にあった石城西部小学校（2008 年廃校）に伝えられた大量の絵葉書資料について紹介・考察するものである。それらの絵葉書は「日本地理絵葉書」というラベルの貼られた木箱に収められており，大正期に発行されたそのシリーズの絵葉書 162 枚，およびその他の絵葉書を合わせて計 359 枚で構成されている。それが同校に伝えられた経緯と，教材として用いられた可能性，さらには子どもたちが絵葉書という視覚メディアを通してどのように日本各地の風景や社会状況などを認識したのかを探りつつ，また Web 上での公開により，広く研究資料として活用できる方法を提示するものである。

【キーワード】　日本地理絵葉書　絵葉書　教材史　石城西部小学校　視覚メディア教材

Ⅰ　はじめに――資料の概要

本論は，現在の大分県由布市にあったある小学校に伝えられた，おそらくは大正期から昭和戦前期にかけて収集された 359 枚の絵葉書について紹介し，その資料の特徴と，絵葉書という視覚的なイメージが一つのメディアとして小学校に存在したことの時代的・教育的・社会的・地域的な意味，またデジタル・アーカイヴの構築などを通してそれを今後いかに活用していけるかについて考察するものである。

それらの絵葉書は，「日本地理絵葉書」という題簽（だいせん）が正面の蓋部分に貼られた縦長の木箱の中に収められ，一括して保存されていたものだが，その内容はさまざまな種類の絵葉書が混ざった状態にあった。

木箱の大きさは高さ 22.3 センチ，幅 13.5 センチ，奥行 17.6 センチで，正面が蓋を上下にスライドさせる落とし蓋の形式になっている。内部は高さ 2.5 センチ間隔で細かく棚状に仕切られ，木箱外側の向かって右側面にはその仕切りに対応するかたちで，関東・奥羽・北海道・

平成 27 年 6 月 1 日受理
＊ひろせ・たけし　大分大学教育福祉科学部芸術・保健体育講座（デザイン）
＊＊たなか・しゅうじ　大分大学教育福祉科学部芸術・保健体育講座（美術史）

中部・近畿・中国・四国・台湾・朝鮮・九州などの表記がある（一部判読不能）。もともとはそのラベルに従って地域別に整理して収納されていたものと考えられるが，今回調査した時点では全く無関係にばらばらに入っていた（図 1, 2）。

すでに述べたとおり，現時点では 359 枚がその箱に収められているが，そのうちもとの「日本地理絵葉書」のシリーズに含まれると考えられる絵葉書は全体の半数にも満たない 162 枚である（絵葉書の比定方法については後述する）。つまりそれ以外の絵葉書をのぞくと箱の中身は空きの多い状態であり，また現存するその絵葉書の地域的な分布は北海道がなく，東北地方も非常に少ないなど相当の偏りがあることから，もともとあった「日本地理絵葉書」のうちの相当数がすでに失われていると推測される。

今回の調査では，それらを整理することで「日本地理絵葉書」のシリーズの絵葉書を特定し，またそれ以外の絵葉書についても分類や特徴を調べることができた。なお，本論では，今回調査した木箱に収められた絵葉書の全体を，それが伝えられた小学校の名称から「旧石城西部小学校絵葉書資料」と呼び，そのうちの「日本地理絵葉書」と特定されたもののみ，その名称を使用することとする。

以下，この絵葉書が伝えられた学校の歴史と，「旧石城西部小学校絵葉書資料」の内容，「日本地理絵葉書」およびその他の絵葉書の詳細，それらがなぜ学校に伝えられてきたのかについての考察とその意味，それらの資料の現代的な価値，そして今後の資料としての活用方法について論じていく。

図1　日本地理絵葉書木箱

図2　木箱側面ラベル

Ⅱ　地域の小学校に伝えられたもの

1　調査の経緯

はじめに，今回の調査対象となった大量の絵葉書の存在を，なぜ筆者が知ったのかについて説明しておく。

2008（平成 20）年，筆者の 1 人（田中）が担当していた授業で，美術館の学芸員の仕事を擬似的に体験する試みを行なった。それは，受講生の 1 人ひとりが自分の大切にしている宝物を自宅等から持ち寄り，グループごとにそれらについて互いに聞き取り調査をし，最終的に集まったものから 1 つのテーマを引き出して，それらを教室に並べて小さな展覧会を作るというものであった。その受講生の 1 人が，今回の調査対象である「旧石城西部小学校絵葉書資料」を木箱ごと持ってきて，それを手に入れた経緯が授業のなかで紹介されたのである。

それは彼女が通っていた小学校にもともとあったものであり，2000（平成 12）年 3 月に卒業後，数年経った大分大学在学時にその小学校も廃校になってしまった。その際，先生から学校にあるものを記念に持っていってよいといわれ，彼女が選んだのがこの絵葉書の入った木箱であった。それは小学校内の部屋のひとつである教材保管のための資料室に置かれてあり，彼女自身そのとき初めて絵葉書の存在を知った。つまり小学校でこの絵葉書を使用した授業を受けた記憶はなく，もともと誰が取り入れ，活用していたのかわからないとのことであった。

2　石城西部小学校について

本資料が長年にわたって伝えられ，現在の所蔵者が通っていた小学校は，現在の大分県由布市挾間町田代にあった石城西部小学校である（図 3）。2007（平成 19）年度の同校「学校経営案」によれば，「国道 210 号線から北西へ約 7km 離れた標高 280m の高台に位置し，静かな自然環境に恵まれた農村地に」建ち，校地総面積は 3,884 ㎡，建物敷地 1,074 ㎡，校舎面積 840 ㎡，運動場 2,645 ㎡であり，「保護者や地域の人々は学校に協力的で行事などに積極的に参加し，地域の子どもの健やかな成長を願い，温かく育んでいる」とある[1]。

同校は 1882（明治 15）年 5 月，「内田小学校」の校名で創立された。校名の由来は内成・田代の首字をとっており，所在地は「内成字踊場」となっている。「表 1」にあるようにその後 7 回の校名改称があり，1957（昭和 32）年 4 月「挾間町立石城西部小学校」と校名改称された。所在地の変更はなかったが，1999（平成 11）年 9 月に国土調査の地番変更により大分郡挾間町田代 388 番地となった。

図3　旧石城西部小学校校舎（2009年　廣瀬撮影）

終戦の年である 1945（昭和 20）年には最大 291 名の児童が在籍していたが，過疎化が進み 2008（平成 20）年 3 月の閉校時には在籍数 6 名であった[2)]。挾間町には石城西部小学校を含め 6 校（挾間小学校，由布川小学校，谷小学校，石城小学校，朴木小学校）があったが，2015（平成 27）年現在は朴木小学校も閉校し，4 校となっている。

表1　沿革

明治 15 年　5 月	「内田小学校」の校名で創立。内成・田代の首字をとる。所在地は内成字踊場。
明治 20 年 12 月	「内成簡易小学校」と校名改称
明治 25 年 12 月	「内成尋常小学校」と校名改称。義務年限 4 カ年
昭和 16 年　4 月	「内成国民学校」と校名改称（国民学校令の施行により）
昭和 18 年　4 月	高等科設置
昭和 22 年　4 月	「石城村立内成小学校」と校名改称
昭和 29 年 10 月	「挾間村立内成小学校」と校名改称
昭和 30 年　4 月	「挾間町立内成小学校」と校名改称
昭和 32 年　4 月	「挾間町立石城西部小学校」と校名改称
平成 11 年　9 月	小学校の設置に関する条例の一部修正（国土調査の地番変更による）により学校の所在地が大分郡挾間町大字田代 388 番地となる。
平成 20 年　3 月	閉校

石城西部小学校は挾間小学校に統合され，児童は挾間小学校，石城小学校にそれぞれ転入，学校沿革誌などの当時を知る資料については挾間小学校に保管されている（表 1）。

Ⅲ　絵葉書から見えてくるもの――「日本地理絵葉書」，その他

1　「日本地理絵葉書」について

木箱に収められた 359 枚の絵葉書の一覧は「表 2」のとおりである。番号はまず絵葉書をシリーズ別に分類して，原則として枚数の多いシリーズ 3 種を枚数順に配置し，シリーズ内では現在の都道府県番号（都道府県コード）の順番で並べた。これらの 3 種とは，「日本地理絵葉書」162 枚，雑誌『主婦之友』附録の「大東京三十五区」60 枚，多色刷りの東京の絵葉書 34 枚である。それ以外の絵葉書は，都道府県番号順に整理番号を付した。なお同一道府県のなかの順番についてはとくに規則は設けず，調査順とした。

1 番から 162 番までの「日本地理絵葉書」に関しては，絵葉書そのものにそれが「日本地理絵葉書」の 1 枚であるということを明らかにする名称等は印刷されていない。今回の調査でそれらを特定したのは，赤字で英語のキャプションとともに日本語による詳しい解説がなされた同一スタイルの絵葉書が，ほかの種類の絵葉書に比べて圧倒的に数多く現存していたからである。またそのテーマの選び方，解説の内容から「日本地理絵葉書」である可能性がきわめて高いと考えられるのである。

今回の調査において，参考のために収集したいくつかの文献やインターネットでの検索などからは，「日本地理絵葉書」に関するいかなる情報も探し出すことはできなかった。このことは筆者が地理学や絵葉書に関する専門の研究者ではなく，調査が不十分であったためかもしれないが，それでも本論において，これらの絵葉書をまとめて紹介し，さらに Web 上で画像を公開していくことは，今後の研究において十分に意義のある作業であると考えられる。

まずこれら 162 枚の道府県別の内訳を見てみると以下の通りである。

宮城 1，秋田 1，福島 2，茨城 3，栃木 2，群馬 4，埼玉 2，千葉 2，東京 13，神奈川 6，新潟 3，富山 1，石川 4，福井 2，山梨 1，長野 4，岐阜 2，静岡 3，愛知 4，三重 4，滋賀 4，京都 10，大阪 6，兵庫 6，奈良 8，和歌山 7，島根 2，岡山 3，広島 7，山口 2，徳島 2，香川 8，愛媛 3，高知 2，福岡 6，佐賀 3，長崎 3，大分 2，宮崎 2，沖縄 1，台湾 4，朝鮮 7。

北海道，青森，岩手，山形，鳥取，熊本，鹿児島の絵葉書は現存しない。

さきに述べたように，現状の木箱にはほかのシリーズなどの絵葉書も含めて 359 枚の絵葉書が入っており，それでもまだ収納に余裕があることから，おそらく当初は 400 枚以上の絵葉書が揃っていた可能性もある。「日本地理絵葉書」と題されたからには，全道府県に関するものがあったにちがいなく，東京や京都は特別に多いとしても，ほかの道府県でも平均 7 ～ 8 枚くらいの絵葉書があったのではないだろうか。それらが時代を経るうちにだんだんと失われていき，別の絵葉書が補充されていったと考えられる。

その全体の特徴としては，「日本地理絵葉書」という題名にふさわしく，一般的な観光地や名所・旧跡をテーマとした絵葉書とは異なる視点から取り上げられた主題を見ることができる。たとえば 14 番の「埼玉県浦和町」（図 4）は，市街地の町並みの写真を配置し，「県庁所在地にして斯の如く落莫たる市街は日本国中他になしと云ふ」と解説されている。ほかにも市街地を俯瞰した 3 番の福島市，町並みを写した 10，11 番の高崎市，城跡と市街地の写真を組み合わせた 118 番の萩市など，県庁所在地や主要都市の市街地を写した絵葉書は多い。

図4　埼玉県浦和町

図5　福岡県製鉄所（八幡町）

また，2 番「秋田県小坂鉱山」，12 番「富岡製糸場（群馬県）」，60 番「愛知県瀬戸製陶工場」，137 番「福岡県製鉄所（八幡町）」（図 5），139 番「福岡県三池炭鉱」，144 番「長崎県三菱造船所」など産業関係の場所が多いことも特徴の一つである。このほかにいわゆる名所・旧跡を取り上げた絵葉書も多く，たしかに「日本地理絵葉書」と呼ぶにふさわしい内容といえよう。

つまり，社会的な生活が営まれる都市の現状，人びとの生活を支える産業活動の状況，それらの歴史的な経緯を視覚的に伝える名所・旧跡，さらにそれら全体の基盤ともいうべき自然環境といった諸要素が総括的に集められているのである。

発行時期に関しては，66 番「石山寺（近江国）」の解説文に「明治十一年先帝御臨幸の際」という一節があり，「先帝」という語から，少なくとも初版が作成されたのは大正期であったことが確認できる。また，31 番「神奈川県横浜港桟橋」は関東大震災以前の写真と思われ，絵葉書の発行も大震災以前の可能性が高い。後述するように，同じ木箱には関東大震災の被害と救護活動などを伝える「教育擁護同盟」と題された絵葉書のシリーズが収められており，それらの絵葉書が小学校に集まっていった時期と状況を推測する手がかりとなろう。

表2　「旧石城西部小学校絵葉書資料」（日本地理絵葉書）一覧リスト

番号	所在地	タイトル	シリーズ名
1	宮城	宮城県旧仙台城	日本地理絵葉書
2	秋田	秋田県小坂鉱山	日本地理絵葉書
3	福島	福島県福島市街	日本地理絵葉書
4	福島	福島県会津白虎隊の墓	日本地理絵葉書
5	茨城	偕楽園好文亭（水戸市）	日本地理絵葉書
6	茨城	霞ヶ浦より筑波山を望む（常陸国）	日本地理絵葉書
7	茨城	茨城県大洗	日本地理絵葉書
8	栃木	宇都宮市（下野国）	日本地理絵葉書
9	栃木	栃木県中禅寺湖と男体山	日本地理絵葉書
10	群馬	群馬県高崎市	日本地理絵葉書
11	群馬	高崎市（上野国）	日本地理絵葉書
12	群馬	富岡製糸場（群馬県）	日本地理絵葉書
13	群馬	群馬県妙義山	日本地理絵葉書
14	埼玉	埼玉県浦和町	日本地理絵葉書
15	埼玉	埼玉県大宮停車場	日本地理絵葉書
16	千葉	千葉県香取神宮	日本地理絵葉書
17	千葉	宗吾神社	日本地理絵葉書
18	東京	東京貴族院　衆議院	日本地理絵葉書
19	東京	大蔵省 司法省 文部省 海軍省 外務省	日本地理絵葉書
20	東京	逓信省 陸軍省 内務省 農商務省 宮内省	日本地理絵葉書
21	東京	[飛行船と丸の内]	日本地理絵葉書
22	東京	東京府日比谷公園	日本地理絵葉書
23	東京	上野公園	日本地理絵葉書
24	東京	東京市府帝室博物館	日本地理絵葉書
25	東京	東京府帝国大学	日本地理絵葉書
26	東京	浅草観音堂	日本地理絵葉書
27	東京	東京府浅草仲見世	日本地理絵葉書
28	東京	東京市向島	日本地理絵葉書
29	東京	東京市泉岳寺	日本地理絵葉書
30	東京	小笠原島	日本地理絵葉書
31	神奈川	神奈川県横浜港桟橋	日本地理絵葉書
32	神奈川	大塔宮（鎌倉）	日本地理絵葉書
33	神奈川	小田原城址（相模国）	日本地理絵葉書
34	神奈川	報徳二宮神社	日本地理絵葉書
35	神奈川	浦賀	日本地理絵葉書
36	神奈川	神奈川県大磯海岸	日本地理絵葉書
37	新潟	新潟県新津油田	日本地理絵葉書
38	新潟	新潟県相川鉱山	日本地理絵葉書
39	新潟	新潟県親不知	日本地理絵葉書
40	富山	富山県伏木港	日本地理絵葉書
41	石川	金沢城（石川県）	日本地理絵葉書
42	石川	石川県金沢兼六園	日本地理絵葉書
43	石川	白山（石川県）	日本地理絵葉書
44	石川	石川県七尾港	日本地理絵葉書
45	福井	藤島神社（福井市）	日本地理絵葉書
46	福井	福井（羽二重工場）	日本地理絵葉書
47	山梨	山梨県甲府市	日本地理絵葉書
48	長野	長野県長野市	日本地理絵葉書
49	長野	長野県善光寺本堂	日本地理絵葉書
50	長野	長野県軽井沢	日本地理絵葉書
51	長野	長野県木曾桟道	日本地理絵葉書
52	岐阜	岐阜県長良川鵜飼	日本地理絵葉書
53	岐阜	岐阜県養老滝	日本地理絵葉書
54	静岡	静岡県下田港	日本地理絵葉書
55	静岡	静岡県三保の松原	日本地理絵葉書
56	静岡	静岡県熱海温泉	日本地理絵葉書
57	愛知	名古屋	日本地理絵葉書
58	愛知	愛知県名古屋城	日本地理絵葉書
59	愛知	愛知県長篠古戦場	日本地理絵葉書
60	愛知	愛知県瀬戸製陶工場	日本地理絵葉書
61	三重	津市	日本地理絵葉書
62	三重	三重県伊勢大神宮　外宮	日本地理絵葉書
63	三重	三重県鳥羽港	日本地理絵葉書
64	三重	三重県御木本真珠採集の光景	日本地理絵葉書
65	滋賀	滋賀県大津市	日本地理絵葉書
66	滋賀	石山寺（近江国）	日本地理絵葉書
67	滋賀	唐崎老松（近江）	日本地理絵葉書
68	滋賀	滋賀県比良山と比叡山	日本地理絵葉書
69	京都	京都紫宸殿	日本地理絵葉書
70	京都	京都金閣寺	日本地理絵葉書
71	京都	京都府清水寺	日本地理絵葉書
72	京都	京都府東本願寺	日本地理絵葉書
73	京都	京都府インクライン	日本地理絵葉書
74	京都	京都府賀茂葵祭	日本地理絵葉書
75	京都	京都友禅染	日本地理絵葉書
76	京都	京都粟田焼	日本地理絵葉書
77	京都	京都府宇治平等院	日本地理絵葉書
78	京都	京都府宇治茶摘	日本地理絵葉書
79	大阪	大阪城　築港　梅田停車場	日本地理絵葉書
80	大阪	大阪造幣局	日本地理絵葉書
81	大阪	大阪府四天王寺	日本地理絵葉書
82	大阪	大阪府四條畷神社	日本地理絵葉書
83	大阪	住吉（大阪府下）	日本地理絵葉書
84	大阪	堺市（和泉国）	日本地理絵葉書
85	兵庫	神戸居留地（兵庫県）	日本地理絵葉書
86	兵庫	兵庫県楠氏の墓	日本地理絵葉書
87	兵庫	明石城址（兵庫県）	日本地理絵葉書
88	兵庫	兵庫県大石旧邸	日本地理絵葉書
89	兵庫	兵庫県舞子	日本地理絵葉書
90	兵庫	生野鉱山（兵庫県）	日本地理絵葉書
91	奈良	大仏（奈良東大寺）	日本地理絵葉書
92	奈良	奈良県東大寺	日本地理絵葉書
93	奈良	正倉院（奈良）	日本地理絵葉書
94	奈良	奈良県春日神社	日本地理絵葉書
95	奈良	奈良県猿沢池	日本地理絵葉書
96	奈良	奈良県法隆寺金堂	日本地理絵葉書
97	奈良	奈良県神武天皇御陵	日本地理絵葉書
98	奈良	奈良県橿原神宮	日本地理絵葉書

99	和歌山	和歌山城址　和歌山全市街	日本地理絵葉書
100	和歌山	和歌山県和歌の浦	日本地理絵葉書
101	和歌山	和歌山県紀三井寺	日本地理絵葉書
102	和歌山	和歌山県那智瀑	日本地理絵葉書
103	和歌山	新宮（和歌山県）	日本地理絵葉書
104	和歌山	和歌山県　高野山	日本地理絵葉書
105	和歌山	紀州蜜柑	日本地理絵葉書
106	島根	島根県松江城址	日本地理絵葉書
107	島根	宍道湖（出雲国）	日本地理絵葉書
108	岡山	岡山市	日本地理絵葉書
109	岡山	岡山県宇野港	日本地理絵葉書
110	岡山	麦稈真田	日本地理絵葉書
111	広島	広島県広島市内（旧大本営）	日本地理絵葉書
112	広島	宇品港と牡蠣養殖場（広島県）	日本地理絵葉書
113	広島	広島県呉市	日本地理絵葉書
114	広島	広島県　江田島海軍兵学校	日本地理絵葉書
115	広島	広島県尾の道市	日本地理絵葉書
116	広島	千畳閣（安芸宮島）	日本地理絵葉書
117	広島	広島県阿武免観音	日本地理絵葉書
118	山口	萩城址と市街（山口県）	日本地理絵葉書
119	山口	赤間宮（下関）	日本地理絵葉書
120	徳島	徳島県徳島市街	日本地理絵葉書
121	徳島	鳴門海峡	日本地理絵葉書
122	香川	玉藻城（高松市）	日本地理絵葉書
123	香川	香川県屋島	日本地理絵葉書
124	香川	善通寺（讃岐）	日本地理絵葉書
125	香川	琴平山（讃岐）	日本地理絵葉書
126	香川	香川県多度津	日本地理絵葉書
127	香川	香川県丸亀市	日本地理絵葉書
128	香川	香川県　寒霞渓	日本地理絵葉書
129	香川	香川県　坂出塩田	日本地理絵葉書
130	愛媛	松山市街（伊予国）	日本地理絵葉書
131	愛媛	愛媛県道後温泉	日本地理絵葉書
132	愛媛	愛媛県高浜港	日本地理絵葉書
133	高知	高知城址	日本地理絵葉書
134	高知	浦戸港	日本地理絵葉書
135	福岡	亀山天皇銅像（福岡）	日本地理絵葉書
136	福岡	福岡県太宰府天満宮	日本地理絵葉書
137	福岡	福岡県製鉄所（八幡町）	日本地理絵葉書
138	福岡	若松港（筑前）	日本地理絵葉書
139	福岡	福岡県三池炭鉱	日本地理絵葉書
140	福岡	福岡県久留米絣	日本地理絵葉書
141	佐賀	佐賀城址	日本地理絵葉書
142	佐賀	佐賀県唐津	日本地理絵葉書
143	佐賀	名護屋城址	日本地理絵葉書
144	長崎	長崎県三菱造船所	日本地理絵葉書
145	長崎	平戸全景（長崎県）	日本地理絵葉書
146	長崎	厳原（対馬）	日本地理絵葉書
147	大分	大分県宇佐神宮	日本地理絵葉書
148	大分	大分県　耶馬溪古羅漢寺	日本地理絵葉書

149	宮崎	宮崎宮（宮崎県）	日本地理絵葉書
150	宮崎	天の逆鉾（宮崎県）	日本地理絵葉書
151	沖縄	沖縄県那覇港	日本地理絵葉書
152	台湾	台湾神社（台北）	日本地理絵葉書
153	台湾	台湾淡水港	日本地理絵葉書
154	台湾	台湾　基隆港	日本地理絵葉書
155	台湾	台湾蕃人の風俗	日本地理絵葉書
156	朝鮮	朝鮮京城	日本地理絵葉書
157	朝鮮	朝鮮南大門	日本地理絵葉書
158	朝鮮	［昌徳宮内博文館］	日本地理絵葉書
159	朝鮮	朝鮮仁川港	日本地理絵葉書
160	朝鮮	馬山（朝鮮）	日本地理絵葉書
161	朝鮮	朝鮮牡丹台	日本地理絵葉書
162	朝鮮	朝鮮人部落の光景	日本地理絵葉書
163	東京	大東京三十五区	大東京三十五区
164	東京	宮城二の丸附近	大東京三十五区(2)
165	東京	桜田門	大東京三十五区(3)
166	東京	赤坂離宮正門	大東京三十五区(4)
167	東京	青山御所	大東京三十五区(5)
168	東京	明治神宮	大東京三十五区(6)
169	東京	明治神宮宝物殿	大東京三十五区(7)
170	東京	神宮外苑	大東京三十五区(8)
171	東京	日本青年館	大東京三十五区(9)
172	東京	靖国神社	大東京三十五区(10)
173	東京	乃木神社	大東京三十五区(12)
174	東京	増上寺本堂	大東京三十五区(13)
175	東京	浅草五重塔	大東京三十五区(14)
176	東京	泉岳寺山門	大東京三十五区(15)
177	東京	震災記念堂	大東京三十五区(16)
178	東京	ニコライ堂	大東京三十五区(17)
179	東京	旧芝離宮恩賜公園	大東京三十五区(18)
180	東京	日比谷公園	大東京三十五区(19)
181	東京	清澄庭園	大東京三十五区(20)
182	東京	浅草伝法院の庭	大東京三十五区(21)
183	東京	東京市役所	大東京三十五区(23)
184	東京	警視庁	大東京三十五区(24)
185	東京	国会議事堂	大東京三十五区(25)
186	東京	東京府美術館	大東京三十五区(26)
187	東京	東京科学博物館	大東京三十五区(27)
188	東京	東京科学博物館	大東京三十五区(27)
189	東京	東京中央電信局	大東京三十五区(28)
190	東京	東京中央郵便局	大東京三十五区(29)
191	東京	日本銀行	大東京三十五区(30)
192	東京	東京劇場	大東京三十五区(32)
193	東京	歌舞伎座	大東京三十五区(33)
194	東京	銀座尾張町	大東京三十五区(35)
195	東京	丸ビル	大東京三十五区(36)
196	東京	大手町通り	大東京三十五区(37)
197	東京	内幸町通り	大東京三十五区(38)
198	東京	霞ヶ関通り	大東京三十五区(39)

199	東京	上野山下附近	大東京三十五区(41)
200	東京	隅田川風景	大東京三十五区(43)
201	東京	赤坂弁慶橋	大東京三十五区(47)
202	東京	東京駅	大東京三十五区(48)
203	東京	上野駅	大東京三十五区(49)
204	東京	新宿駅	大東京三十五区(50)
205	東京	地下鉄ビル	大東京三十五区(51)
206	東京	馬場先門附近	大東京三十五区(52)
207	東京	芝浦の岸壁	大東京三十五区(53)
208	東京	浅草仲見世	大東京三十五区(54)
209	東京	浅草公園六区	大東京三十五区(55)
210	東京	神田市場	大東京三十五区(56)
211	東京	魚河岸	大東京三十五区(57)
212	東京	ビル街の朝	大東京三十五区(58)
213	東京	東京の反面	大東京三十五区(59)
214	東京	水の上の生活	大東京三十五区(60)
215	東京	池上本門寺の五重塔	大東京三十五区(61)
216	東京	芝浦桟橋	大東京三十五区(62)
217	東京	神宮プール	大東京三十五区(63)
218	東京	水の公園	大東京三十五区(64)
219	東京	水の上の生活	大東京三十五区(65)
220	東京	海苔を採る舟	大東京三十五区(66)
221	東京	モダン髪洗粉	
222	不明	森永ドライミルク	
223	東京	浅草観世音	
224	東京	浅草公園池の端光景	
225	東京	愛宕神社	
226	東京	愛宕神社	
227	東京	吾妻橋	
228	東京	永代橋	
229	東京	江戸川の光景	
230	東京	北白川宮銅像	
231	東京	北白川宮銅像	
232	東京	楠正成之銅像宮城前	
233	東京	九段靖国神社	
234	東京	九段遊就館	
235	東京	九段遊就館	
236	東京	宮内省	
237	東京	軍神廣瀬中佐及杉野兵曹長之銅像	
238	東京	西郷隆盛の銅像上野公園	
239	東京	桜田門	
240	東京	不忍弁財天	
241	東京	不忍弁財天	
242	東京	芝公園徳川御廟	
243	東京	芝公園徳川御廟	
244	東京	新橋停車場	
245	東京	泉岳寺	
246	東京	泉岳寺義士墓	
247	東京	帝国劇場	
248	東京	帝国大学及赤門	

249	東京	東宮御所	
250	東京	二重橋	
251	東京	仁禮海軍中将銅像 元帥西郷従道銅像 川邨海軍大将銅像	
252	東京	日比谷公園	
253	東京	堀切の菖蒲	
254	東京	靖国神社	
255	東京	陸軍士官学校	
256	東京	陸軍士官学校	
257	秋田	秋田の露	軍事郵便
258	京都	古都の春	軍事郵便
259	栃木	日光東照宮御厩ヨリ陽明門ヲ望ム	
260	栃木	日光東照宮陽明門	
261	栃木	日光東照宮眠猫	
262	栃木	日光東照宮飛越ノ獅子	
263	栃木	日光大獣院御手洗屋	
264	栃木	中禅寺道馬返シ	
265	栃木	方等瀧	日光名所
266	東京	東京火災地域及罹災者集合略図	
267	東京	傷ましき汽車の残骸	教育擁護同盟
268	東京	傷ましき電車の残骸	教育擁護同盟
269	東京	上野公園西郷銅像の尋人掲示	教育擁護同盟
270	東京	増上寺内の炊出し	教育擁護同盟
271	東京	鉄砲洲小学校の急造バラツク教室	教育擁護同盟
272	東京	日比谷公園の少国民学校	教育擁護同盟
273	東京	米国救護班の活動	教育擁護同盟
274	東京	上野公園帝室博物館	東京名所
275	東京	帝国劇場	東京名所
276	東京	浅草観世音本堂	大東京
277	東京	日比谷公園の噴水池	東都名所
278	東京	天皇陛下御名代秩父宮殿下	大正天皇御大喪儀記念
279	東京	馬場先万歳門	御大典奉祝記念
280	東京	本郷明治製菓売店	新東京風景
281	神奈川	建長寺仏殿内部	
282	京都	明治天皇桃山御陵	
283	京都	明治天皇霊柩列車 (8925) 京都駅着御	
284	京都	新設桃山停車場	
285	京都	明治天皇桃山御陵御寶穴前ノ御須屋	
286	大阪	天王寺五重塔	大阪名所
287	大阪	大阪城	大阪名所
288	大阪	生国魂神社	大阪名所
289	三重	伊勢外宮一の鳥居	
290	三重	伊勢外宮	
291	三重	伊勢宇治橋	
292	三重	伊勢内宮神苑日本海軍戦勝紀念砲	
293	三重	伊勢朝熊山金剛證寺	
294	奈良	奈良　大大仏	
295	香川	港麗はしく　『高松』高松港桟橋	
296	福岡	筑前太宰府神社正面	
297	福岡	筑前太宰府神社　飛梅	

298	福岡	筑前太宰府神社本社	
299	福岡	筑前太宰府榎木寺	
300	福岡	太宰府天満宮金の鳥居	
301	福岡	太宰府天満宮反橋側面	
302	福岡	太宰府天満宮飛梅	
303	福岡	太宰府天満宮榎寺	
304	福岡	太宰府天満宮楼門	
305	福岡	太宰府天満宮文書館	
306	福岡	筑前二日市湯町ヨリ天拝山ヲ望ム	
307	福岡	観世音寺	
308	福岡	筑前　官幣中社竈門神社拝殿	
309	福岡	高山正之先生墓全景	筑後史料
310	福岡	河内貯水池大噴泉	八幡名勝
311	福岡	商船会社桟橋	門司名所
312	福岡	関門海峡	門司名所
313	福岡	和布刈神社	門司名所
314	福岡	門司遊郭	門司名所
315	熊本	熊本放送局清水放送所放送機室	
316	大分	官幣大社宇佐神宮 廻廊及楼門	
317	大分	官幣大社宇佐神宮 鉄の鳥居	
318	大分	官幣大社宇佐神宮 勅使松ヨリ御神殿ヲ望ム	
319	大分	湯ノ坪温泉場ヨリ豊後富士ヲ望ム	由布院名勝
320	大分	若宮八幡社境内ノ清流	由布院名勝
321	大分	大津留校庭より松ヶ城趾を望む（阿南村）	
322	大分	仙境蛇生瀬の滝（東庄内）	
323	大分	夜目渡の滝（南庄内）	
324	大分	郷社天満宮（南庄内）	
325	大分	永慶寺旧趾と金の鐘子	
326	大分	湯の平温泉場	
327	大分	天神山繭市場	
328	大分	（第六）大仏側面	
329	大分	（第四）大仏工事	
330	大分	（第　）大仏基礎工事	
331	大分	大分県速見郡山香農業倉庫建築工事中 総建坪六十五坪	昭和ブロツク建築
332	大分	大分県速見郡山香農業倉庫建築工事中 （其二）総建坪六十五坪	昭和ブロツク建築
333	大分	別府市駅前 松野屋旅館	
334	大分	別府市駅前 松野屋旅館	
335	大分	別府市駅前 松野屋旅館	
336	大分	別府市駅前 松野屋旅館 玄関口其ノ二	
337	鹿児島	桜島の大爆発にて市街家屋倒壊の惨状	鹿児島
338	鹿児島	桜島有村温泉場　鹿児島	
339	不明	帆走・漕撓	
340	なし	正成桜井子別れ	
341	なし	新田義貞太刀流	
342	台湾	台湾行啓台湾神社御参拝の摂政宮殿下	
343	朝鮮	光州公立小学校　小学校講堂	
344	朝鮮	殖産銀行光州支店　光州郵便局	
345	朝鮮	全南忠魂碑　光州神社	

346	朝鮮	無等山の瀑布　光州川河畔	
347	中国	嫁入り行列（輿入）／葬式行列	支那風俗
348	中国	支那踊り／驢馬に乗る子供	支那風俗
349	中国	渡し船／長閑な洗濯婦	支那風俗
350	中国	北京郊外に行く駱駝／木樵	支那風俗
351	中国	支那美人／路上の子供女	支那風俗
352	中国	大道の易者／路上の戯れ	支那風俗
353	中国	朝起の一つ小鳥を楽む 路上のどかに小鳥を持ちて	支那風俗・ 軍事郵便
354	中国	事変をよそに眠るが如き大凌河の流れ	錦州入城画報
355	モンゴル	蒙古風俗・移動部落	
356	不明	［雪景色、馬車、工場地帯］	
357	なし	［ダチョウ？］	
358	なし	独逸特約東洋無比矢野動物園ヲヽカミ狼	
359	なし	白ラクダ	

絵葉書の年代推定に際しては，表面（住所・宛名記載面）のレイアウトが手がかりになる[3]。表面の下部三分の一以内に通信文を書けるようになるのは，私製葉書の発行が許可された7年後の1907（明治40）年3月28日からで，さらに18（大正7）年3月1日からは通信文の欄が二分の一に拡大された。「日本地理絵葉書」の表面は通信文の欄が三分の一であり，発行時期は大正前期の可能性が高いと考えられる（図6）。

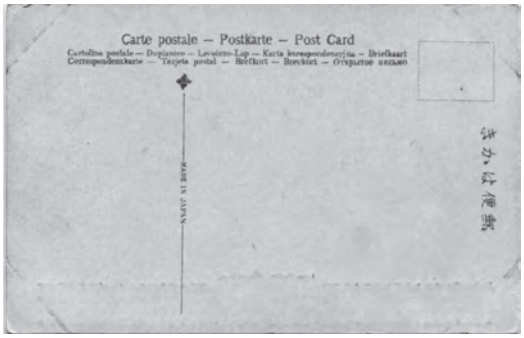

図6　日本地理絵葉書表面　（1番表面）

2　「日本地理絵葉書」以外の絵葉書について

では，「日本地理絵葉書」以外の「旧石城西部小学校絵葉書資料」に含まれる絵葉書類はどのようなものであろうか。ここでは「表2」の順番に沿って，そのあらましを説明していく。

「日本地理絵葉書」についで枚数が多いのは，60枚が現存する「大東京三十五区」のシリーズである。これは葉書の住所・宛名等記載面に印刷されているとおり，1932（昭和7）年9月に出版された『主婦之友』第16巻第9号の附録であった。同号の目次ページには「（特別附録）大東京完成記念・東京新名所絵はがき七十二枚贈呈の大附録」という見出しがある[4]。この雑誌が刊行された翌月，東京市は従来の15区から近隣の町村を編入して35区となり，一気にその規模を拡大したのだった。

163番の絵葉書はそれらの目次の役目を果たすもので，東京の区割りを示した地図の上に撮影場所の番号が振られ，1から66までのその番号に対応するタイトルが列記されている。それによれば，本資料に現存しないのは，1「二重橋」，11「遊就館」，22「上野動物園」，31「三越と三井銀行」，34「銀座大通り」，40「新宿大通り」，42「日本橋」，44「吾妻橋」，45「両国橋と国技館」，46「永代橋」である。また27「東京科学博物館」は同じものが2枚現存する。

この絵葉書シリーズの特徴としては，本資料のほかの絵葉書に比べて，雑誌というメディアの附録らしく写真の構図やアングルがとても“モダン”な印象を与える点があげられよう（図7）。その前年には「満州事変」が勃発し，長い戦争の時代へと突き進んでいく時期ではあったが，まだ人びとの生活にその暗い影を見ることはほとんどできず，豊かな都市の文化が花開いていたことを感じさせる絵葉書シリーズである。その光景は，大分の農村部に暮らす子どもたちの目にどのように映ったのであろうか。

図7　東京中央郵便局
（「大東京三十五区」29）

次に枚数の多いのが，東京の名所の数々を紹介した彩色の施された一連の絵葉書で 34 枚ある。このうち 5 種は同一のものが 2 枚あるが，彩色は異なっている。紙質も彩色もあまりよくなく廉価なものと思われるが，歴史的な建築物や銅像などが写されていて，その点では興味深いシリーズである（図 8）。

これら以外はいずれも，シリーズであっても 10 枚に満たないさまざまな種類の絵葉書がおよそ 100 枚のこされている。本論の筆者は 2 人とも絵葉書を専門に研究したことがないため，そのなかに貴重なものがあるのか，それともどれもがごく一般的な絵葉書なのか，全く判断がつかないのだが，257，258 番の「軍事郵便」，267 ～ 273 番の「教育擁護同盟」のシリーズ，278 番の「大正天皇御大喪儀記念」と 279 番の「御大典奉祝記念」などは，めずらしく思いながら眺めたものであった。

このうち光村原色版印刷所の発行になる「軍事郵便」は，秋田の蕗を刈る女性と京都の着物姿の女性を写した美しい印刷の葉書で，戦前期における女性像のイメージのありようを彷彿とさせるものである（図 9）。「教育擁護同盟」のシリーズは前述のとおり，関東大震災の被害状況や救護活動の様子を絵葉書にしたもので，ニュースを視覚的に人びとに伝えるメディアとしての役割を当時の絵葉書が担っていたことが，如実に現われているシリーズといえよう（図 10）。

図8　仁禮海軍中将銅像，ほか

図9　秋田の蕗

図10　鉄砲洲小学校の急造バラツク教室

「御大典奉祝記念」の葉書は，石城西部小学校の前身である内成尋常小学校の 3 名の人物に連名で宛てた使用済みの葉書であり，ほかにも 287 番「大阪城」（大阪名所）や 315 番「熊本放送局清水放送所放送機室」など，使用済みの絵葉書がいくつか保存されているのも本資料の特色である。おそらくは小学校に届いた絵葉書の写真に教員が興味をもち，授業などの参考にできると考えて木箱のなかに入れたことを想像させる。また東京や京都，伊勢や大阪の絵葉書が数枚ずつあるのは，教員が出張などで訪れた際に入手したものであろうか。

もう一つ，本資料の特徴としては，大分県の小学校に伝えられたという地域的な特色がはっ

きりと浮かび上がる点があげられる。

大分関係の絵葉書が「日本地理絵葉書」の 2 枚のほかに，21 枚現存するのである（うち 3 枚は同一葉書）。そのうちいずれも参詣記念印が押された宇佐神宮の絵葉書 3 枚は宇佐町の穴瀬商店，「由布院名勝」のシリーズ 2 枚は豊島という発行元を確認できる。それ以外の 16 枚は，表面の切手を貼る欄に馬（繋駒）のマークが描かれていて和田成美堂の発行であることがわかるが [5]，その内容は県内の小学校の校舎や（図 11），庄内地域にある生瀬の滝や夜目渡の滝（図 12），郷社天満宮といった現在ではあまり知られていない名所・旧跡，1928（昭和 3）年に竣工した別府大仏の建設風景，「昭和ブロツク建築」というシリーズ名の山香に建てられた農業倉庫（図 13），別府駅前の旅館の絵葉書といったように多種多様である。

図11　大津留校庭より松ヶ城趾を望む

図12　夜目渡の滝（南庄内）

図13　大分県速見郡山香農業倉庫建築工事中

さらに福岡県関係が「日本地理絵葉書」に含まれるものをのぞいて 19 枚あることも，同様に地域的な特色といえよう。このうちの 10 枚は太宰府天満宮の絵葉書で，学問の神様をまつる神社への信仰の篤さ，九州の観光名所のなかでも抜群の知名度をもっていたことが想像される。ほかに 4 枚が現存する要塞司令部の認可を受けた「門司名所」のシリーズや，桜島の噴火による被害を伝える絵葉書も興味深い。

また「日本地理絵葉書」のなかの台湾と朝鮮関係以外に，台湾，朝鮮，中国，モンゴルが主題の絵葉書があることも，戦前の時代状況が垣間見られる。ちなみにそのほかのヨーロッパやアメリカ，東アジア以外のアジア地域，アフリカなどに関する絵葉書はない。それは当然かもしれないが，やはり考えておかねばならない点である。もちろん以前はそのような種類のものが存在して，その後破棄された可能性もないではないが，そうではないとすれば，昭和戦前期までの地方の小学校という場において，日本とその植民地以外の場所に対する視覚的なイメージの獲得は決して容易ではなかったことを考える必要があるのだろう。

Ⅳ　学校教材／歴史資料としての絵葉書

前述のとおり，「旧石城西部小学校絵葉書資料」の現在の所蔵者は，1990 年代に同小学校に通学していた頃に，それらの絵葉書を教材として用いた記憶はないという。すでに半世紀以上たった古い昔の風景が写された絵葉書は，少なくとも通常の小学校の授業では必要のないものであり，おそらくは資料室の片隅に何十年も放置されたままになっていたのであろう。

ただしそれらが入手された当初，たとえば「日本地理絵葉書」が木箱に入って小学校に持ち運ばれた頃は，どうだったであろうか。たしかにいまのところその入手経緯は不明であり，いつ小学校の備品になったのかさえわからないのだが，それが教材として小学校で購入された可能性は決して小さくない。本資料の絵葉書のなかには，画鋲によると考えられる小さな穴の開いているものが多い。「日本地理絵葉書」では現存する 162 枚のうち少なくとも 66 枚にそのような穴が確認できた。ほかにも 260 ～ 261 番の日光東照宮，300 ～ 305 番の太宰府天満宮，343 ～ 346 番の朝鮮の絵葉書などで画鋲のあとが確認できる。これらのことから，教室の後ろの壁などにこれらの絵葉書を貼って，子どもたちが眺められるようにしていた光景を想像するのは行きすぎであろうか。

今回調査したなかで，戦前の小学校において絵葉書を教材として用いた授業が実践されたという具体例を見つけることはできなかった。ただし大分県の事例ではないが，1914（大正 3）年に愛知県の教育会雑誌に発表された論文のなかで，地理教育に関する次のような授業の進め方の提案を見ることができる。それは尋常高等小学校の訓導によるもので，たとえば奈良県についての授業をする際，単にその知識を伝えるだけでなく，教員自身がそこに行ったことがあるならばそのとき「見たり聞いたりその外色々と調べたこと」を話しつつ児童の関心を惹きつけ，また「後で先生の買つて来ました絵葉書なども見せてあげませう」というように進めれば，「児童は必ず教材に向つてはずんで来るに相違ない」というのである [6]。それは当時の学校教育における視覚メディア教材としての絵葉書の有効性を示唆するものといえよう。

大正期以降，1919（大正 8）年に史蹟名勝天然紀念物保存法が制定されるなど，しだいに「郷土」に関する研究が進み，学校教育においても郷土教育の実践に力が注がれるようになる [7]。そこで目指された郷土に対する理解の深化は，愛国心の醸成にもつながることとなり，1941（昭和 16）年に小学校が国民学校となって，新しい教科として「国民科」が発足すると，「郷土の観察」の授業が行なわれた。その 2 年後に出版された石崎庸の『郷土の観察とその実践』には，「郷土の観察をより価値あり，より教育的なものにするための施設の整備」のなかで，立体模型や平面図，鳥瞰絵図，校外授業地図，関係年表，郷土に関する著作物や郷土の偉人の肖像とともに「郷土の参考資料の陳列」として「絵葉書・写真類」があげられている [8]。

ただしいま，大正期から昭和戦中期までの 30 年以上の期間をひとまとめにとらえたが，それは急速な近代化のなかで日本の風景が大きく変貌した時代でもあった。「日本地理絵葉書」が大正前期に発行されたものだとすれば，それは明治 40 年代あたりから府県写真帖の刊行が増加し，写真が生み出した視覚的イメージによって日本全国の風景が人びとの身近なものになった時期とつながっている [9]。小暮修三氏は明治期から昭和戦前期にかけての絵葉書に現われた海女のイメージがどのように変容したか，その「眼差し」の変遷を指摘するが [10]，それと同様なことが「日本地理絵葉書」を含む「旧石城西部小学校絵葉書資料」のそれぞれの写真に

も見出せるであろう。絵葉書は当時の最新のメディアであったが，だからこそ，そこで表わされたイメージの多くは急激な時代の変化のなかですぐに古くなるものでもあった。「日本地理絵葉書」が教材として用いられたとしても，その使用年数はごく限られていた可能性がある。だからこそ関東大震災の様子を写した「教育擁護同盟」や「大東京三十五区」のような新しい絵葉書のシリーズがその木箱には次々に補充されていったともいえる。それはまた，つねに新しい時代の状況に対応していく学校現場の，歴史の積み重なりを伝えてくれるものでもある。

V　保存と活用のあり方――Web上でのデータベースの構築など

ここまで述べてきたとおり，今回取り上げた「旧石城西部小学校絵葉書資料」は，そこに含まれる「日本地理絵葉書」という資料そのものの貴重さと，そこから地方の農村部の小学校の歴史や，そこで学んだ子どもたちが視覚的なイメージを通してどのように地理を把握したかが垣間見られるなど，今後の学術的研究にも多方面で活用できる資料であると考えられる。

このことから，その画像データの保存・活用方法について具体的に提示することで，本論の結びとしたい。

本論は学部紀要に発表後，本学の学術情報拠点リポジトリに掲載される予定である。その際，本論とともに，構築した絵葉書資料の画像閲覧システムを登録し，一般に向け公開することで視覚情報を共有することを試みる。このことは現在，学術情報拠点の担当者と登録に向けて協議中であり，総データ容量の上限や著作権の有無を確認している。

「図 14」は画像閲覧システムのイメージ図であり，全 359 点を閲覧しやすいように，画像のサムネール一覧を表示し，任意の画像を選択することで「図 15」に示す拡大画像と詳細説明文に移動することができる。任意の画像にたどり着く道筋は複数用意する。たとえば「表 2」の絵葉書リストのページをアップロードして，タイトルを選択すれば拡大画像などへ移動できるようにする。また，カテゴリを地域別，発行元別に分けて選択したり，建物や人物が主になるサムネール画像のみ閲覧可能にさせたりと，項目ごとの選択ができるように構築する。

図14　画像閲覧システム　イメージ図

図15　拡大画像　イメージ図

このシステムの具体的な活用方法については，学術的な調査・研究における資料としてのほか，教育現場での教材資料として広く利用されることを想定している。

社会科の地理歴史では，近代日本の社会や環境，人びとの暮らしをわかりやすく説明するための視覚的な資料として活用できる。たとえば現場学習や修学旅行において，絵葉書の図像を手がかりに現地へ赴き，現在のすがたと比較することで地域の発展や変容を学習することができるだろう。屋外ではタブレット端末などを有効利用すれば，現状を記録撮影し，絵葉書の画像と重ね合わせるなどの加工も考えられる。

図画工作や美術では，作画のための参考資料や鑑賞教材として利用できる。またとくに中学校や高等学校の段階での鑑賞教育を考えるならば，美術史上の名作にかぎらない表象文化の広大な領域へと，子どもたちに目を向けさせるための手がかりともなりうる。

実物の絵葉書はいずれも約 90 ミリ×約 140 ミリと小さく，教室での情報共有は難しい面がある。しかしこのようにデータ化した資料は，プロジェクタや液晶画面などで大きく表示することが可能なため，学校現場では児童生徒に向けて提示しやすくなるのも利点であろう。

以上のようなシステムが本論とともに実現することで，今回紹介した絵葉書が学校での教材や学術的な研究に活用されることになれば幸いである。

注

1)　『平成 19 年度　学校経営案』（由布市立石城西部小学校，2007 年）。
2)　「高らかに最後の校歌～挾間・石城西部小，99 年の歴史にお別れ」『毎日新聞』2008 年 3 月 17 日・大分版を参照。
3)　小暮修三「甦る戦前の〈海女〉：絵葉書に写る〈眼差し〉の社会的変遷」『東京海洋大学研究報告』第 10 号（2014 年）。
4)　石川文化事業財団お茶の水図書館編『カラー復刻『主婦之友』昭和期目次』第 1 巻（石川文化事業財団，2009 年）。
5)　松田法子，古城俊秀監修『絵はがきの別府　古城俊秀コレクションより』（左右社，2012 年）51 ～ 52 頁。
6)　山本安吉「地域教授に対する私見（二）」『愛知教育』317 号（1914 年）19 頁。寺本潔「戦前の府県教育会雑誌『愛知教育』（明治 20 ～昭和 21 年）にみる地理教育関係記事の検討」『愛知教育大学教科教育センター研究報告』第 13 号（1989 年）を参照。
7)　伊藤純郎『増補　郷土教育運動の研究』（思文閣出版，2008 年）。
8)　石崎庸『郷土の観察とその実践』（帝国出版協会，1943 年）269 ～ 270 頁。
9)　三木理史『世界を見せた明治の写真帖』叢書・地球発見 10（ナカニシヤ出版，2007 年）117 頁，ほか。
10)　前掲，小暮「甦る戦前の〈海女〉：絵葉書に写る〈眼差し〉の社会的変遷」。

＊　本論は著者の 2 人が共同で資料収集等の調査・研究を行なったうえで，主に第Ⅰ，Ⅱ，Ⅴ章を廣瀬，第Ⅲ，Ⅳ章を田中が執筆した。表はすべて廣瀬が作成した。
＊　本論の執筆にあたっては，資料のご提供や情報をご教示いただくなど，次の方々にとくにお世話になりました。心よりお礼申し上げます。
秋篠義隆氏（由布市立挾間小学校 校長）
渡辺真由美氏（由布市立東庄内小学校 校長）※元石城西部小学校教諭
井原綾香氏（2009 年度美術選修卒業生）

On "Nihon Chiri E-hagaki (Picture Postcards of Japanese Geography)"

— From the viewpoint of the history of visual teaching material —

HIROSE, Takeshi and TANAKA, Shuji

Abstract

This paper examines a quantity of picture postcards which were kept at the Sekijo-seibu elementary school (closed in 2008) in Hasama-machi, Yufu City, Oita. These postcards were stored in a wooden box labelled "Nihon Chiri E-hagaki (Picture Postcards of Japanese Geography)." This set of postcards consists of 162 cards of "Nihon Chiri E-hagaki" printed in the Taisho period and other picture postcards.

We reseached the details of how these postcards were kept and used at the elementary school. We also consider how the children in the Taisho and early Showa periods rocognized and understood the Japanese landscapes and social circumstances through these picture postcards.

These postcards will be put on view in the ripository of our university library.

【Key words】 Nihon Chiri E-hagaki (Picture Postcards of Japanese Geography), picture postcard, Sekijo-seibu elementary school, history of teaching materials